



ちよっと  
いい話

シリーズ④

ちよボラ活動で、  
私もまちも笑顔になろう

「ちよボラ」とは、ちよこっこのボランティアのことです。ちよボラ活動で心とまちを豊かにしましょう。

捨てればゴミですが、整理すれば売れるものがあります。例えば、笠松町のボランティア団体「木曜めぐみの会」(片桐稔代表)は、月2回福祉会館で封筒や葉書に貼ってある古切手を切り取って整理し、社会福祉協議会に送っています。社会福祉協議会は、その古切手を業者に送ってお金に換えています。古切手は海外の収集家に売られたり、切り絵の材料として使われたりして、1kgの古切手は約500円になります。社会福祉協議会は、古切手などで得たお金を、災害支援などのために積み立てています。

皆さんも古切手を集めたら、役場、中央公民館、松枝公民館、総合会館、社会福祉協議会にお持ちください。

また、「松枝放課後児童クラブ まつぼくらぶ」(福田恵代表)はベルマークを集めて、被災地支援活動を行っています。

皆さんもベルマークを集めたら、役場1階ロビー、中央公民館、ふらっと笠松などに設置のボックスに入れてください。

古切手やベルマークを集めるちよボラ活動を通して、笑顔あふれる笠松町をつくりましょう。



古切手を切り取る皆さん

身近で「ちよっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。

☎388-3926 FAX388-3233

メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かきまつの民話「昔むかし」

田代の龍②

「なんや、なんのこつちや。」  
「実はな。子どものころの話じゃが、ふしぎなことがあってな。このおばけ松のそばを通ると、いきなり大きな鳴き声が出たんじゃ。見上げると、あの穴に、大きな龍の顔がのぞいておったのじゃ。まもなく、いなびかりがしたかと思うと、大つぶの雨が降ってきたのじゃ。」  
それから、龍の鳴き声は時々聞いたが、いつもそのあと雨が降りよった。龍にたのんだら、雨を降らせてくれるにちがいない。」  
「そんなばかげたことがあるもんか。」  
「いや、あの龍にお願いすりゃ、きつと聞いてくださるのじゃ。」

弥助の真顔をみていた男衆は、キツネにつままれたようだった。けれども、ひとつぶの雨でもほしい村人たちは、とにかく弥助の言ったとおりにすることになった。

夕方になると、境内にはやぐらが組まれ、たいまつに火がつけられた。おばけ松の回りには、しめなわがかざられ、おそなえの棚がととのった。  
田代はもちろん、まわりの村々から大ぜいの男や女たちが集まり、やぐらの上の笛や太鼓に合わせて、雨ごいのおどりが始まった。

(つづく)

